

本日の主な論点

これまでの議論から、本県の長期的な持続可能性を考えるならば、都市集住型よりは地域分散型の社会構造を目指すべきことが見えてきた。その生活を支える産業・雇用の未来はどうあるべきかについて、その方向性を検討する。

論点 1 産業の未来

- Society5.0 の到来による産業のデジタル化と、社会の成熟化に伴うサービス産業化やシェアリングエコノミーの拡大が今後も続くと見込まれる中、
 - ・ 製造業が主力を担ってきた本県産業の構造はどのように変わっていくか。
 - ・ 本県の産業は何を強みとし、何で稼いでいくか。
 - ・ 製造業の未来はどうなるのか。
- (参考) 現在の本県の産業政策の方向性
 - ・ 産学連携、科学技術基盤の活用によるものづくり産業の高度化
 - ・ 神戸医療産業都市を中心とした健康・医療産業の育成
 - ・ 海外進出の促進（地場産業を含む中小企業の海外進出支援等）
 - ・ 起業の促進（スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成等）
 - ・ 交流の促進（観光誘客の促進、芸術文化・スポーツの振興等）
- 今後「地域分散型」の社会構造への移行が進むとして、大都市、地方都市、農山漁村、それぞれに暮らす県民は何で稼いでいくことになるのか。

論点 2 雇用の未来

- 働く人と企業の関係はどう変わるか。県民の働き方はどのように変わるか。そもそも「雇用社会」に未来はあるか。
 - ・ 兼業・副業はどこまで拡大するか、ジョブ型雇用やギグエコノミー化（請負化）はどこまで広がるか。「自営業」の復権は進むのか。
 - ・ 働く場所や時間はどう変わるか。テレワークは一般化するか。社員を時間で管理する考え方は変わるか。オフィス空間はどう変わるか。
 - ・ AI化で「雇用が減少」「所得格差が拡大」といった意見や、AI化した社会では「ベーシックインカム」が必要といった意見について、どう考えるか。
- デジタル化する経済の中で付加価値を生み出せる人材の育成や、人生 100 年時代を迎える中での人材育成のあり方について、どう考えるか。
 - ※「教育・人材育成」については、別途テーマ化して協議予定